

## 猛暑の小中学校職員室 エアコン設置の考えは？

(自民クラブ)

### 問

世界中で、環境問題に取り組んではいるものの、遅々としてその取り組みの成果が得られていない現状にある。近年、異常気象による猛暑が続いており、あらゆる面でその影響が表れている。

特に、今年の夏の暑さは格別なものがあり、我が家においても、場所によってはエアコンを稼働させても室温が34度になるといことは珍しいことではなく、まして冷房設備のない学校の職員室は朝日が差し込むと同時に午前中から33〜34度になるなど、厳しい暑さが続いた。

小中学校に向く機会も多いが、職員室に入るたびに、その暑さに驚き、その中で勤務しておられる先生がたの健康を気遣ったものである。

国の三位一体改革などで大きな影響を受け、市の財政が非常に厳しい状況にあることはじゅうぶん承知した上で、あえてエアコン未設置の小中学校への設置を前向きに検討したいと考

えるものであるが、今後、どのように取り組むのか。

### 答

小中学校職員室へのエアコン設置状況については、旧丹原町は小学校5校・中学校2校、旧小松町は小学校2校・中学校1校には設置済みとなっている。また、旧西条市の小学校10校・中学校4校、旧東予市は三芳小学校を除く小学校8校・中学校3校には未設置となっている。

今後、まずは、耐震補強を優先的に取り組みたいと考えており、小中学校や幼稚園の職員室へのエアコン設置については、学校環境衛生の基準などを参考にしながら、年次計画を作成し



## 資源ごみ抜き取り防止 の妙策は？

(無党派)

た上で整備に向けて努力したいと考えている。

### 問

ごみステーションから新聞や段ボール、アルミ缶などの資源ごみが常時抜き取りされている。この行為によって各自治会のごみステーションでは、ごみの荷崩れやごみの散乱、汚染が生じ、整理・清掃の負担を強いられ、抜き取る者とのトラブルも多数発生し、横暴の取り締まりを望む市民の声も多い。また、市にとっても収集量の減少で売却収入の減額を来している。

抜き取り量や金額をどう把握をしているのか。また、条例制定についての考えを問う。

### 答

新聞紙については、収集日前夜、ルールを守らずに出されたものを抜き取る業者や、収集日の早朝に抜き取りに回る業者のトラックが6台から7台活動していることを確認している。アルミ缶の抜き取りについては、もえないごみの中か

ら抜き取っているものであるため、全体の把握ができていない。

資源ごみの収集量は、平成16年度から19年までの実績をみると、減少傾向にあるが、もえないごみ・もえないごみ・粗大ごみについても同様の傾向にあることから、単純に資源ごみの減少分がすべて抜き取りによるものとは言えない。また、古紙の収集量は、収集日の天候やPTA活動などの集団回収の実施状況により、年間収集量に大きな差があること。アルミ缶については、道前クリーンセンターの選別ラインで対応しているため、もえないごみとして収集されていることなどから、実際にアルミ缶がどの程度搬出されたのかは把握できていない。したがって、抜き取られた量と金額については把握できていない。

抜き取り行為を規制する条例には、「ごみ集積所に出された物の所有権は市に帰属するとするもの」と「指定業者以外が資源物を収集運搬することを禁止するとするもの」の2つのタイプがある。

前者の所有権を主張するタイプの条例では、窃盗罪の適用など、実行に至るまでの手続が煩雑であり、送検しても不起訴となった事例があることなどから、最近では後者のごみステーションからの持ち出しを禁止し、違反した場合の命令や、命令を無視した場合に罰金を科すという条例が主流となっている。



資源ごみも貴重な収入源

この条例は、ごみステーションの場所の明確性、特に道路上のごみステーションの場所をどうするのかという問題や出所の特定が困難で、抜き取り現場を押さえる以外に証拠性に乏しいなど、実際の運用が困難である。条例を制定している自治体も、条例の実効性を確保するため、ごみステーションの警備委託など多大な費用と労力をかけているものの、依然として抜き取り行為はなくなっておらず、条例が抜き取り行為をなくす決め手とはなっていない。